

2013 年大学入試センター試験 【講評(速報)】 現代文

第1問 評論 やや難

<文章>

刀の「鐔」について述べた小林秀雄の随筆。センター試験では数年に一回第1問で評論ではなく随筆が出題されるが、今年がそれに当たったことになる。しかも小林秀雄という独特な文章体の筆者であることから、受験生としては面食らったことだろう。

<設問>

設問形式は例年とほぼ同一。問6が一昨年に戻って2題になった。問1が漢字問題。問2から問5までが話題ごとの理解をはかる問題。問6が文章全体の理解をはかる問題。

文章自体は読みにくいものだが、設問と選択肢は取り組みやすかったように思える。問2は「応仁の大乱以前の鐔のあり方とそれ以後の違い」の確認。問3は「戦国武士にとっての仏教について、知識の遊戯としての見方と筆者の見方の違い」の確認。問4は「鉄について、種としての意味合い」の確認。これらは例年通り、設問と選択肢から「解くための仕事」を定めるのが比較的楽だった。そして文章から「設問条件を満たした情報」を確認したうえで選択肢を照合すれば、消去は難しくはなかった。しかし問5はエピソードにおける「気持ち」についての問であり、小説と同様に消去法でないかぎり正解は導けなかった。この問を評論として解いた受験生は戸惑ったように思える。問6は冷静に選択肢に書かれていることと文章自体を照らし合わせれば、消去は比較的簡単にできた。

第2問 やや難

<文章>

長い私小説。昨年が短かったために今年は文章量が長くなるとは予測していたが、さすがに120行越えは予想外だった。文章は大きく3つのブロックに分かれていて、真ん中の「お伽噺」のブロックと前後のブロックとの文脈的関わりがミソであり、やはりそれが設問としてつつかれていた。

<設問>

設問形式は例年とほぼ同一。問1が本文における意味問題。問2から問5が場面ごとの理解をはかる問題。問6が全体の理解をはかる問題。

今回の鍵は問3と問5だろう。どちらも傍線部直前に「お伽噺」を思い出したことを理由にしている。では傍線部場面と「お伽噺」のどの場面が関係しているのか、そこを的確に見抜けていないと無駄に「お伽噺」を読み返して時間を浪費してしまうことになる。

問4の正解の選択肢②の「母と調子を合わせるように」の「ように」は多様な解釈ができるため、不正解と解釈することもできる分、やりにくかった。

問6を苦手とする受験生は多いが、「表現の特徴の説明」という設問の言い回しに混乱しているだけのように思われる。各選択肢が触れている本文箇所ときちんと比較照合すれば、誤りを見つけることは実は他の設問よりもたやすい。ここは時間をかけることをためらわずきちんと比較照合して間違いを探してほしい。